
cut

大輔(だーすけ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

cut

【Nコード】

N4494Q

【作者名】

だいすけ
大輔

【あらすじ】

「寒い夜、一人だと身も凍るくらいの中、ふとカーテンを開けて。」

酷く身を振らなくてははいけないくらい寝付きの悪い夜。僕はふとカーテンの隙間を1?くらい開けてみた。

胸を打つほどの綺麗な三日月が目の前に浮かんでいる。

何かを嘲笑うかのように歪められた唇のような角度。不意に僕の唇も同じように象られた。

あんな綺麗な月は嫌いだ。どの月も綺麗だと思う僕が言うのも何だが、あれは気に食わなかった。

だって、写真に写して御覧なさい。ちっとも伝わってこないのはおろか、月すら見えない。まるで小さな星の点にすらすぎないようだ。あの強い存在感を醸し出す月が、星と何ら変わりない。そう思うと、僕は腹を抱えて笑いたくなってくる。

それならば僕は、塵にも満たなくて当たり前だと思えてくる。そして少しだけ安心するのだ。

この頃の空は、すぐ表情を変える。

泣いたり、笑ったり、怒ったり、照れたり、こちらも釣られてしまうような大きい変化。

夜もまた然り。黒色に染まって尚、その様々な表情はめくるめく動いていく。

月も目のように色が変わる。心を覗くような気分だ。いや、覗かれる気分だ。

あの月に見られたら、何故か心がざわついてしまう。目を奪われて、そしてまた不安要素をのこしていく。

満月は不安の揺れが大きくなる、世間の空気も変わってしまう。良くないことの勘ほど、当たりやすいものはない。そういわんばかりの不安の多さだ。

僕はそんなとき、ピシヤリとカーテンを閉じてしまふのだった。

今日も空は不思議な感情を胸に植え付けていった。

レンズ越し、鮮やかな月が溜め息を吐くかのように瞬いて、それを写そうとしても出来なくて。

悔しさで溢れた。何度もシャッターを切った。けれど月も夜空も写らなかった、僕の望むようには。

夜の匂いは写真には収めきれないらしい。僕は胸を膨らませて、大きく息を吸い込んだ。それもまた、その日によって違うものと成しているから。

もっと月に近付けたら良いと思えた。僕らの理想を背負った月を写してみたい。

けれど、今僕が見ている月は本来の姿なのかもしれない。理想を背負わない、ありのままの揺らいだもの。

写真をとることも、これ以上起き続けることも不可能だと見なした僕は、カーテンを閉め切ったのを再確認してベッドに横になった。

未だに脳裏にチラつく三日月の計算されつくした弧。あれを美しいと思ったのはいつぶりだったろうか。

持ち上げた銀に鈍く光るものを取り下げた。最早持つ手にも覇気があるまい。力なくすれば目的は果たせない。

今日もやり損ねたな、などと呑気に構えながら僕は目を閉じた。

目覚ましは僕をきちんと起こすだろうか？朝が来なければいいのに、

何度目かの溜め息に、自嘲の表情を浮かべた。
窓の外の空も、自嘲の表情を、切なさを誘う匂いに乗せた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4494q/>

cut

2011年10月8日01時13分発行